

3 環境配慮の推進

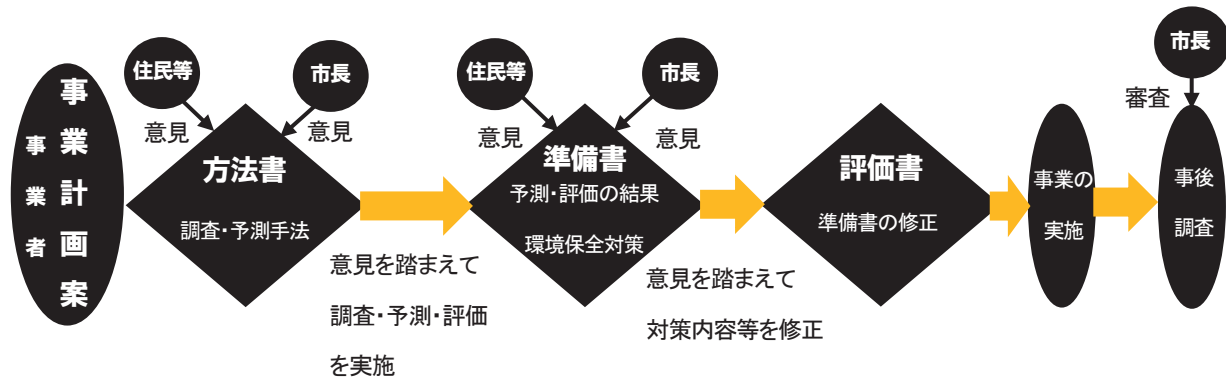
(1) 環境影響評価制度

大規模な事業の実施にあたり、事業者自らが、その事業が環境に及ぼす影響をあらかじめ調査・予測・評価し、その結果を公表して住民等の意見を聴くことにより、事業が環境の保全に十分

配慮して行われるようにするための制度を実施しています。

これまでに大阪市域で環境影響評価の手続きが行われた事業等は54事業です。

【環境影響評価項目】							
・大気質	・水質、底質	・地下水	・土壌	・騒音	・振動	・低周波音	・地盤沈下
・悪臭	・日照障害	・電波障害	・廃棄物、残土	・生態系	・地球環境	・地象	・気象（風害を含む）
・水象	・動物	・植物	・生態系	・景観	・自然とのふれあい活動の場	・文化財	



(2) 建築物の環境配慮制度

建築物の環境への配慮を促進するため、「大阪市建築物の環境配慮に関する条例」（平成24年4月施行）に基づき、建築物の環境配慮制度を実施し、快適で環境にやさしい建築物の誘導を図っています。

① CASBEE 大阪みらい

一定規模以上の建築物の環境品質・性能と環境負荷の低減等に係る計画書の届出を求め、その概要を大阪市のホームページ等で広く市民に公表を行っています。

② 省エネ基準適合の促進

一定規模以上の建築物に対して、建築物省エネ法では対象としていない「住宅以外の建築物における断熱性能などの外皮性能への適合」や「住宅における省エネ基準（外皮性能とエネルギー消費量）への適合」について条例により適合を求めています。平成30年4月からは対象範囲を拡大しました。

③ 再生可能エネルギー利用設備導入の促進

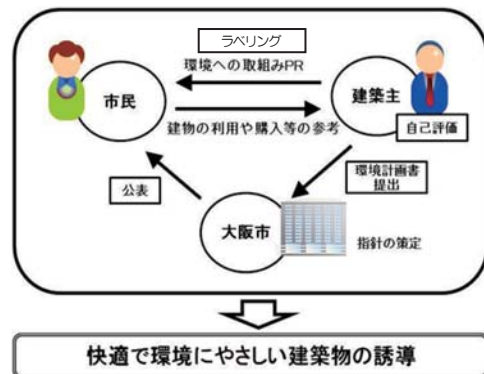
一定規模以上の建築物について、太陽光発電設備や太陽熱利用設備等の導入を検討するよう求めています。

④ 建築物環境性能表示制度（ラベリング）

一定規模以上のマンションなどの募集広告等に、環境性能を表示することを求めています。平成30年4月からは工事現場への表示も求めています。

⑤ 表彰制度

環境配慮に優れた物件を「おおさか環境にやさしい建築賞」として表彰しています。



<建築物の環境配慮制度の対象建築物>

<ラベリング>

延床面積	CASBEE大阪みらい	ラベリング	省エネ基準適合		再生可能エネルギー利用設備導入検討	表彰
			住宅以外	住宅		
10,000㎡以上	届出義務	・広告への表示義務 ・工事現場への表示義務(※1)	適合義務(※2)	適合義務(高さ60m超のみ)	検討義務	環境配慮に優れた建築物を表彰
2,000㎡以上						
300㎡以上	届出(任意)	広告への表示(任意)				



(※1)平成30年4月から実施。
(※2)平成30年4月から、「延床面積10,000㎡以上」から「延床面積2,000㎡以上」に対象範囲を拡大。

4 環境をとおした広域連携・国際協力

(1) 国連関係機関への協力・支援

大阪府は、平成4年にUNEP国際環境技術センターを鶴見区鶴見緑地に誘致し、(公財)地球環境センター(GEC)とともに、環境分野における国際交流を推進することにより、開発途上国の環境問題の解決に取り組んでいます。

① UNEP国際環境技術センターの事業

廃棄物管理を主要な活動分野として、開発途上国を中心に、環境上適正な技術(EST)の普及促進に取り組んでいます。

②(公財)地球環境センター(GEC)の事業

UNEP国際環境技術センターを支援するために設立された法人で、開発途上国への技術的支援等の国際協力、環境技術に関する研究、広報・普及啓発活動など地球環境保全活動の支援等を行っています。

(2) 開発途上国・地域との交流とその支援

(独)国際協力機構(JICA)と協力して、大阪府がこれまで蓄積してきたさまざまな環境技術・専門的知識を提供する研修を実施しており、令和元年度末までに124か国延べ2,083名を受け入れています。主要な研修は、次のとおりです。

①「自動車大気汚染対策コース」

途上国における自動車排出ガスによる大気汚染や温暖化に関する対策についての研修です。

延べ研修修了者 23 か国 93 名

②「廃棄物管理技術(基本・技術編)コース」

都市環境を考慮しつつ廃棄物処理を推進する知識と技術の習得、環境衛生の向上に資することを目的とした研修です。

延べ研修修了者 73 か国 259 名

③「下水道システム維持管理」

途上国で下水道整備に従事する技術系行政官を対象に、都市の雨水対策をはじめ、衛生環境の改善、水質保全、維持管理技術などの知識と技術の習得を目的とした研修です。

延べ研修修了者 55 か国 240 名

④「都市上水道維持管理(浄水・水質コース)及び(給・配水コース)」

途上国の水道施設の維持管理に携わる技術者、技術系行政官を対象に、浄水施設、給・配水施設の維持管理手法などの習得を目的とした研修です。

延べ研修修了者 71 か国 299 名

(3) 官民連携による協力・支援

① 水・環境技術の海外展開

「大阪 水・環境ソリューション機構 (OWESA)」を設立し、上水道、下水道、廃棄物処理など水・環境分野において官民が連携した海外での事業展開をめざしています (H23~)。

これまで、ベトナムやミャンマー等において、官民連携で水・環境に関する調査を実施し、実証事業の実施など現地での技術採用に向けた取組みを展開しています。今後も引き続き将来の事業化に向けた取組みを進めていきます。

② アジア等の諸都市における脱炭素都市形成支援

ベトナム・ホーチミン市の脱炭素都市形成を支援するため、平成 28 年 9 月に、協力に関する覚書を更新し、ホーチミン市気候変動対策実行計画の進捗管理のための人材育成や、脱炭素化プロジェクトの創出などを進めています。ホーチミン市

では、令和元年度末までに 7 件の JCM (二国間クレジット制度) *プロジェクトが実現するなど、同市の脱炭素化の推進に貢献しています。

平成 30 年 8 月には、フィリピン・ケソン市とも、協力に関する覚書を締結し、同市の脱炭素都市形成の実現に向けた都市間連携を進めています。

令和元年 9 月から、タイが推進する国家成長戦略タイランド 4.0 に基づいて設けられた国内最大の経済特区である東部経済回廊 (EEC) においても JCM プロジェクト創出に向けた取組みを開始しました。

また、事業者の海外進出や大阪・関西経済の活性化を図るため、平成 28 年 6 月に立ち上げた産学官連携の「Team OSAKA ネットワーク」の活動を通して、アジア諸都市等において、JCM 等を活用したプロジェクトを創出する取組みを進めています。

令和 2 年 6 月末参加団体 : 148 団体

第 2 節 大阪市の率先行動

(1) 「大阪市市内環境管理計画」の取組み

大阪市独自の環境マネジメントシステム「大阪市内環境管理計画」に基づき、昼休み時の不要な照明の消灯や、再生可能な紙ごみの分別・リサイクルなど、省エネルギー、省資源、廃棄物の減量・リサイクルに取り組んでおり、各所属の CO₂ 排出量や、省エネ・省資源の取組みの実施状況を公表しています。

また、全職員を対象に、e ラーニング形式の研究を年 3 回実施しているほか、職員の環境保全の取組みを相互に点検・評価 (クロスチェック) する内部監査、各所属の取組みについて有識者の専門的な助言をいただく外部評価を実施しています。

(2) グリーン購入*の取組み

「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」(グリーン購入法) が平成 13 年 4 月に施行されたことを受け、大阪市においても「大阪市グリーン調達方針」を平成 14 年 6 月に定め、環境負荷の低減に役立つ取組みを推進しています。

(3) 電力調達に係る環境配慮の取組み

大阪市では、事務事業に伴う温室効果ガス等の排出削減を推進するため、電力の調達の入札を行う場合、価格だけでなく、電気事業者による環境負荷の低減に関する取組み状況等を考慮する環境配慮制度を平成 20 年度より導入しています。令和元年度は、大阪市の市有施設において、本制度による契約を 28 件 (564 施設) 締結しました。

水道局 Top Commitment

お客さまにお届けしている水道水は、地球環境と密接に関係しており、環境に深くかかわる事業者として、環境に配慮した事業運営を行っていく重大な責務があると考えています。

水道局では、これまでにポンプ設備をはじめとする水道施設に関する種々の省エネルギー対策の実施や、太陽光発電、小水力発電の導入といった再生可能エネルギーの利用向上、さらには浄水発生土の有効利用をはじめとする廃棄物の減量化の施策などに率先して取り組んできたほか、職場改善運動（かいぜんWater）提案制度を通じて、業務改善はもとより環境保全・環境負荷低減の取組を含む、数多くの改善事例を各職場で実践するなど、さまざまな分野での環境施策を進めてまいりました。

今後も、これまで実施してきた取組にとどまらず、水道水を補充できる給水スポットの設置や府の“おおさかマイボトルパートナーズ”に参加し、その活動を通じてマイボトルの利用を促進し、プラスチックごみの発生抑制やCO₂排出量の削減につなげていくとともに、民間企業との共同研究やICTの活用等による地産地消の推進など、水道の枠にとらわれない環境施策への取組を推進していくことで、更なる地球環境への貢献を果たし、大阪市の一員として「SDGs達成に貢献する環境先進都市」の実現をめざしてまいります。

水道局キャラクター
「びゅあら」

